

平成 28 年 5 月 20 日

2020 年東京オリンピック・パラリンピックに係る
救急災害医療体制を検討する学術連合体（コンソーシアム）の結成

救急災害医療体制は学術的根拠に支えられ構築すべきもので、2020 年東京オリンピック・パラリンピック（以下東京オリンピック 2020）も例外ではありません。我々 7 学会は学術団体としての使命を全うすべく、東京オリンピック 2020 の救急災害医療体制に係る学術連合体（コンソーシアム）を結成致しました。

近年のオリンピックでは、傷病者の多くは病院よりも会場で対応され、傷病内訳は消化器疾患、食物関連疾病が多いことが知られています。また、重大事件の発生はあったもののテロは低頻度であることも報告されています。セキュリティリスクは、対応リソースに依存すると言われております。

オリンピックに代表されるような大きなイベントにおいては、計画策定開始時点から救急・災害医療対策チームが関係機関と十分な調整を行い、予測できる傷病者への救急医療だけでなく、テロなどを想定した災害医療対策を準備し、訓練を積んで検証しておくことが極めて重要です。

私たち救急医療、災害医療の専門家が組織的に検討すべき課題が多くあります。そこで我々 7 学会では、学術連合体（コンソーシアム）を結成し、関係諸団体や他学会とも連携を強化し、諸課題に取り組むべくことと致しました。具体的な課題の抽出ならびその検討は、7 学会が設置する合同委員会が担うこととなります。

この取り組みを社会に広く広報すると同時に、今後の関係諸団体や他学会のご協力をお願い申し上げます。

日本外傷学会代表理事	横田 順一朗
日本集中治療医学会理事長	西村 匡司
日本集団災害医学会代表理事	小井土 雄一
日本中毒学会代表理事	嶋津 岳士
日本熱傷学会代表理事	仲澤 弘明
日本臨床救急医学会代表理事	坂本 哲也
日本救急医学会代表理事	行岡 哲男